

## 2013年 韓国土木学会(KSCE)年次大会参加報告

今年の韓国土木学会年次大会（以下 KSCE）は、10月23日～25日の三日間、リゾート地として知られる江原道 High 1 Resort にて開催されました。土木学会（以下 JSCE）からは橋本会長、山川国際センター次長、韓国グループリーダー江上氏、佐々木寧埼玉大学名誉教授、波津久氏、国際センター職員橋の6名で参加しました。



IPO 堰の全景

初日は、私たちを含めた海外ゲストは KSCE のシャトルバスで四大江河川事業のうちの漢江支流に整備された「IPO 堰」のテクニカルツアーに参加しました。K-WATER の管理事務所で四大江河川事業や IPO 堰の整備についての説明を受け、周辺施設の見学をしました。堰頭のデザインは、鳥のタマゴを模したもので、水門操作の機械室が納められています。また、各地で整備されている堰のデザインは、地元の特徴を表したものとして整備されており、IPO 堰の堰頭も市民の憩いの場を象徴しているようでした。



土木学会 国際センター  
韓国 Gr.リーダー  
江上 和也

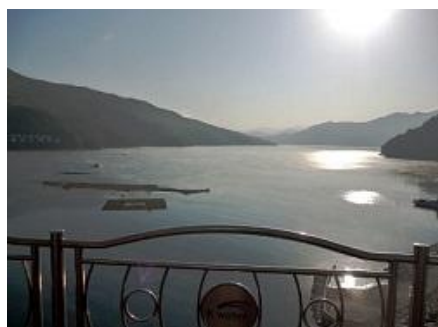
二日目は大会開会式に参加した後、KSCE の Civil Engineering Leader' s Network に参加しました。その後、JSCE-KSCE の代表が集まった二国間会議では、来年の JSCE100 周年記念国際会議や式典への協力、今後の両国学会の関係強化等について活発なディスカッションが行われました。KSCE の Sim 会長は 100 周年記念行事への参加を快諾してくれました。

国際円卓会議では、「Environmental Design Aquatic Plants in Urban Streams」のテーマのもと、埼玉大学名誉教授の佐々木先生を含め4名が講演を行いました。佐々木先生の講演の中で、東日本大震災の津波被害の説明がありましたが、そのときはリラックスしていた参加者の表情も少し変わったように見えました。講演の後は参加者から積極的な質問が出され、盛会のうちに閉会しました。



RTM にて講演中の佐々木先生

最終日は、韓国分会の朴元分会長と李会長とともに早朝6時に宿泊先を出発し、40年前に日本の技術協力のもとに完成した昭陽江ダムの見学に向かいました。このダムは東アジア最大級のロックフィルダムで、治水の他、ソウル首都圏への都市用水の供給や水力発電も行う多目的ダムです。また、K-WATER の説明によると、湖岸のサイクリングや散策、ダム湖のクルーズ等が行われており、年間100万人を超える観光客が訪れる有名スポットともなっています。



昭陽江ダム湖を望む

その後、最後の目的地である韓国道路公社春川支社を訪問し、ソウル-春川の PPP による高速道路整備や現在建設中の韓国最大の 10 km のトンネル整備の説明を受けました。ここではスピード違反の取締システムや交通量が計画に満たなかった場合の補償制度、民間投資における維持管理等の課題等の説明を受けました。午前中のうちに 250 km ほどを移動する強行軍でしたが、大変充実した時間を過ごすことができました。最後にソウル市内で日本大使館のご協力のもとに在韓の日本人技術者との昼食による懇談会を行い、日韓の技術交流等の課題について

て活発な意見交換が行われました。

大会期間中、日本には二つの台風が接近し出発や帰国が危ぶまれましたが、無事に全日程を終えることができました。また、三日間にわたり私たちのお世話をしてくださいました韓国分会長の李東郁先生や朴慶夫元分会長にこの場を借りてお礼申し上げます。